

古文ドリル：「らむ」の用法識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「らむ」の3用法

古文の助動詞「らむ」は、終止形接続（ラ変は連体形接続）の**現在推量**の助動詞。文中での働きが3パターンあります。

用法	訳	判別ポイント
① 現在推量	今ごろ～ているだろう	目に見えない遠くの事柄、文末
② 原因推量	（どうして）～なのだろう	「など・なぜ・いかで」と呼応
③ 伝聞・婉曲	～とかいう・～のような	体言の前

識別の鉄則

1. **直後を確認**：体言なら婉曲、文末なら推量
2. **文中の疑問詞を確認**：あれば原因推量
3. **時間副詞を確認**：「今ごろ」「いまごろ」あれば現在推量

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「らむ」の直後をまず見る

- 直後が **体言（名詞）** → **婉曲・伝聞** 「～のような／～とかいう」
- 直後が **句点（。）** / **文末** → **現在推量** 「今ごろ～ているだろう」
- 直後が **「ば／ど／ども」** → **已然形** で原因・逆接系の文脈
- これで3用法の入り口が決まる。

コツ② 文中の疑問詞を1秒で探す

- 「**など・なぜ・いかで・いかに・なに**」が文中にあったら → **原因推量** で確定 「（どうして）～なのだろう」

- 「らむ」は「など…らむ」「いかで…らむ」の係り結びをよく作る。疑問詞が見えた瞬間に原因推量と答える。

コツ③ 訳語「今ごろ」を当ててみる

- 「今ごろ～しているだろう」と訳して文意が通れば**現在推量**。
- 目の前の事象でなく、**遠い場所・離れた人物**の今を想像する文脈で出るのが典型。
- 例：「都には今ごろ桜咲くらむ」（今ごろ咲いているだろう）

コツ④ 「らむ」の前が終止形かチェックすれば誤読が消える

- 終止形（またはラ変・形容詞・形容動詞は連体形）＋「らむ」が原則。
- 「あらむ」の場合はラ変「あり」連体形＋むで「らむ」ではない可能性大 → 助動詞「む」と区別。

試験本番でのチェック順序

1. 「らむ」の前が終止形か確認（ラ変なら連体形）→ そうでなければ別の助動詞を疑う
 2. 直後を見る（体言→婉曲、文末→推量）
 3. 文中の疑問詞を探す（あれば原因推量で即決）
 4. 「今ごろ」を当てて訳が通れば現在推量
- この順番で**3秒**で答えが出ます。

よくある引っ掛け

- 「あらむ」「侍らむ」を「らむ」と誤判定 → ラ変「あり」「侍り」未然形＋推量「む」の可能性。前を確認
- 「らん」表記は中世以降の口語形「らむ」と同じもの
- 体言の前でも、文意が「今ごろ～だろう人」のように現在推量で通る場合は推量とすることもあ
る → 訳優先

採点表

- 基礎（Q1～Q20）： /20
- 標準（Q21～Q50）： /30
- 応用（Q51～Q80）： /30
- 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- 合計： /100

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

3用法を識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都に雪降るらむ。

Q2. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

など花散るらむと嘆く。

Q3. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

唐土に伝はるらむ書物。

Q4. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

春の野に若菜摘むらむ。

Q5. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかで世の人をも知るらむ。

Q6. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

山にこもるらむ僧。

Q7. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

君は今ごろ何想ふらむ。

Q8. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

雨降るらむ夜半。

Q9. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

なぞ春雨かく降るらむ。

Q10. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都人いま咲くと見るらむ桜。

Q11. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

旅人は今、どこへ向かふらむ。

Q12. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の都の人、今いかに住むらん。

Q13. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

北の方は涙にむせぶらむ。

Q14. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

散る花も惜しまるらむ春。

Q15. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかなる故にて来らるらむ。

Q16. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の都に住むらむ人。

Q17. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

大空に響くらむ雷の音。

Q18. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都に花は咲くらむ。

Q19. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

など人は嘆くらむ。

Q20. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

山陰に咲くらむひと枝の梅。

【第2部】標準編 (Q21～Q50)

文脈、係り結び、敬語が絡む応用問題。

Q21. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

故郷を発ちて、いま誰か待つらむと思ふ。

Q22. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

春や来ぬらん。

Q23. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

なぞ世の人は心狭くやあるらむ。

Q24. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

蛍の光、明らかなるらむ草の上。

Q25. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

我れは知らねども、人は知るらむ。

Q26. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかでこの音を聞き給ふらむ。

Q27. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月かたぶくらむ夜半に、起きて見る。

Q28. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都の人は花見つるらむ。

Q29. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

など春雨も降るらむ、わが嘆く時に。

Q30. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

御前の物見させ給ふらむこと、いとあはれなり。

Q31. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月かげに、影うつるらむ池の面。

Q32. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

山深く、嵐吹き荒ぶらむ夜半に、独り嘆く。

Q33. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

君は何ゆゑに泣き給ふらむ。

Q34. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都にもいま春来たるらむ。

Q35. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

海辺に立つらむ人。

Q36. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

飛ぶ鳥の心、君や知るらむ。

Q37. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いまごろ山に響くらむ鐘の音。

Q38. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

なほ慕ふらむ心、いかに。

Q39. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の都を出でて、いま誰を恋ふらむ。

Q40. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

寒けき夜半に、独り眠るらむ人。

Q41. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

嵐山の紅葉、今いかに散るらむ。

Q42. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

春の野に咲くらむ花を見ばや。

Q43. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

我が思ふ人は、いまいかにあらむ。

Q44. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

風吹くらむ山の梢。

Q45. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都人は雪を見て、何想ふらむ。

Q46. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いま、都に紅葉散るらむ。

Q47. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

なほ嘆かるらむ思ひ。

Q48. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

何の故にて、君は怒り給ふらむ。

Q49. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月かげ、雲に隠るるらむ夜は、心細し。

Q50. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

京の人は、今ごろ何作るらむ。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

引用構文、和歌、敬語の組み合わせを含む応用問題。

Q51. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人ありやなしやとたれか問ふらむ。

Q52. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

嵐山の紅葉、いま錦のごとしと人皆言ふらむ。

Q53. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の都の人にあるらむと思ふ。

Q54. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかで月をば見**らる**らむ。

Q55. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都人いま秋の風を聞**くら**む。

Q56. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

心知る**らむ**人にこそ、語らはめ。

Q57. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかに思ふ**らむ**、人の身は限りなし。

Q58. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

春過ぎて夏来た**らむ**山。

Q59. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかで秋風は人の心を吹**くら**む。

Q60. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

嘆かる**らむ**心、いかにせむ。

Q61. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

海に出でて漁す**らむ**人ぞ多き。

Q62. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

何ゆゑに嘆く**らむ**と人間ふ。

Q63. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都の春、今ごろ盛りなる**らむ**。

Q64. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

心ぼそく住む**らむ**山里。

Q65. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

行く春や、今ごろ何方に行く**らむ**。

Q66. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

夢の中で会ふ**らむ**人。

Q67. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

仏に祈り給ふ**らむ**心ぞ尊き。

Q68. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

など、いつまでも生き給ふらむと思ふ。

Q69. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都の人は風雅を解すらむ。

Q70. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかでか我が心を知るらむ。

Q71. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

嵐に倒るらむ木。

Q72. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

風吹けば波立つらむ、海辺の人ぞ恋し。

Q73. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いまごろ何思ふらむと問ふ。

Q74. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

春の山に響くらむ鳥の声。

Q75. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

都の方角、いま雲かかるらむ。

Q76. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかで秋風は身にしむらむ。

Q77. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の光、はるかに照らすらむ野。

Q78. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

故郷を想ふらむ夜半に、月清く照る。

Q79. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

鶯さへづるらむ春の朝。

Q80. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

雪深き山にこもるらむ人。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

Q81. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやとぞ問ふらむ。

Q82. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いまごろ家にとどまるらむ妻、いかに心細からむ。

Q83. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子参りて、炭櫃に火おこして、物語などしてあつまり候ふに、「少納言よ、香炉峰の雪、いかならむ」と仰せらるれば、御格子上げさせて、御簾を高く上げたれば、笑はせ給ふ。

Q84. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

唐土に渡るらむ人、なほ風雅を解するらむ。

Q85. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

行く春に、我が涙やまざるらむ。

Q86. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の都の人にしあるらむを、世の人は誰も知らず。

Q87. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いみじき宿世の人にあるらむを、いかでかかる目に遭ふ。

Q88. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

ねぶたしと言へど、なほ筆を取り、何書くらむかな。

Q89. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

鳥のさへづり、いま心地よく聞こゆるらむ朝。

Q90. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

物のあはれを知らぬ人にあらざるらむ。

Q91. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

名にし負ふ都鳥のごとし。「ありやなしや」と問へば、ただ淋しく啼くらむ。

Q92. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

春のあけぼの、空ぼおぼろに霞むらむ山際。

Q93. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

夢の中で会ふらむ人にぞあらぬ。

Q94. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いかにして都人もこの花を見るらむと心配す。

Q95. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

月の都に住みける人、いまも生き給ふらむ。

Q96. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

雨に濡るらむ枝を、なほ花散らずあれ。

Q97. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

かの人も歌詠み給ふらむを、いかでか知る。

Q98. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

行く川のながれは絶えず、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、つひに消ゆらむ。

Q99. 次の傍線部「らむ」の用法を答えよ。

いま、行くたてやなく、唐土に向かふらむ人。

合計 / 100

あとがき

「らむ」の識別の核心： - 直後を見る：体言→婉曲、文末→推量 - 疑問詞を探す：あれば原因推量 - 時間副詞を確認：「いま」「いまごろ」あれば現在推量

「らむ」は 現在進行中の遠くの出来事を推測する 助動詞。「けむ」（過去推量）「べし」（推量全般）と混同しないこと。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

